

つ・な・ぐ



浦安市市制施行40周年記念 まちづくりフェスタwith

今回の開催で3回目となる地域交流・多世代交流イベント「まちづくりフェスタwith」。初めて制限のない中で賑やかに行われました。子ども連れの家族、友だち同士、あるいはお一人で、様々な世代の方1,100人が来場されました。晴れて暖かな一日でしたが、強風が吹き荒れ、駐輪場の自転車がすべて倒れるほど。ただ、今回は31人の高校生ボランティアが参加し、手際よく自転車を起こしてくれました。その他にもたくさんの活躍の場が見受けられ、市民団体の皆さんから感謝の言葉が多く聞かれました。ここでも世代を超えた交流がありました。



■偶然目の前を通り、保育園のお友だち親子と一緒に参加しました。広い体育館で思い切りドローンを追いかけるのが良いですね。
(入船・40代男性)

■昨年につき、お友だちと一緒に工作を中心に楽しみました。特にバターナイフ作りは1時間くらいかけて、自分で木を削るところから行ったので作り甲斐がありました！
(北栄・10歳女の子)

■講演会に参加した後、フリマでお買い物を楽しみました。身近な雑貨の品揃えが良くて嬉しいです。会場の賑やかな雰囲気が好きですね。
(美浜・80代女性)



■けん玉やお手玉などの昔遊びや、紙コップを使った手軽な工作を子どもと楽しめて良かったです。
(日の出・30代男性)

■地域にこんなにいろいろな活動をしている団体があって意外でした。
(入船・60代女性)

■大人も子どもと一緒に楽しめるのがいいですね。
(日の出・30代女性)

■今はミニ四駆を見ることが少なくなってしまったので、子どもたちがミニ四駆で遊べる機会があってありがたかったです。
(北栄・30代男性)

■どんな市民活動団体があるのかを知りたくて参加しました
(美浜・70代男性)

まちづくりフェスタwith

来場者数：1,100人
参加団体数と人数：49団体228名
ボランティア参加者数：41名
※高校生31名を含む

ホームページもご覧ください⇒





イベントごみを減らそう！ チーム530

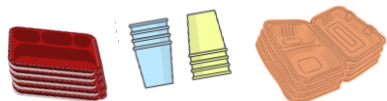
「ごみ減量」をテーマに活動するチーム530（チームゴミゼロ）では、「エコステーション」を設置し、ごみの分別に関わる活動を行いました。

エコステーション設置と声掛け

チーム530（チームゴミゼロ）は、これまでもwithで展示や牛乳パックを使ったリサイクル工作を行って、市民の皆さんにごみ減量を呼びかけてきました。今回は食事の後に出るお弁当のごみを正しく分別するための「エコステーション」を設置し、イベントごみの減量を実践しました。

エコステーションでは「ビン・缶・燃やせるゴミ・燃やせないゴミ」という従来の分類に加え、「燃やせるゴミ」のうち、プラスチックごみをさらに細かく、容器や蓋の形状ごとに分別しているのが特徴です。

ごみを捨てに来る参加者の中には、燃やせるごみとして1つの袋にまとめて捨てる人も少なくありません。チーム530のメンバーは、それ自体は分別上間違いではないことを伝えた上で、さらにごみを減らすための声掛けを行っていました。かさばる容器も、その形状ごとに重ねると嵩を減らせます。参加者自身が取り組むことで、どれだけ嵩が小さくなるか実感してもらうこともできます。積み重ねた容器をみて、ハッとしたような表情で今一度分別の仕方を確認していました。



アンケートの実施

今回withでは来場者にごみ減量に関するアンケートも実施。その内容は、浦安市の「イベントごみ減量ガイドライン」や「自治体でのごみ減量についての取り組み」を知っているかどうかというもの。

最近ではキッチンカー出店が増え、イベントごみも増加傾向ですが、「イベントごみ減量ガイドライン」の存在はあまり知られていません。だからこそ、チーム530は「イベントごみを減らそう」を活動テーマの一つに掲げています。

分別箱ごと飛ばされそうになるほどの強風の中、アンケート協力を笑顔で求める高校生ボランティアも大活躍でした。

チーム530が伝えたいこと

チーム530はエコステーションやアンケートを通じて、市民一人ひとりがごみの減量についての意識を持ち、地域のごみ問題に関心を寄せるきっかけ作りを目指しています。たとえば、「自治体のお祭りのごみを減らすを努力を自分たちでしなければ」という意識の芽生えや、「地域のごみ分別がどうなっているか」を調べる機会になればと願っています。

チーム530副代表の大野さんは「ごみ問題は知識を持った一部の人がだけで解決するものではなく、

おむつをしている赤ちゃんから大人まで、誰にも関わる問題である」と語られました。

楽しく4R



体育館ではごみ減量・再資源化キャラクター「クルンちゃん」の歌と踊りが披露されました。曲名は「クルクルクルンの4R」。歌詞の中にごみを減らすための4つのRが入っています。歌は街角パフォーマーの小原さん、踊りはクルンちゃん・グルンさま、チーバくん、ボランティアのコラボによるものです。可愛いゆるキャラの踊りに子どもたちは大喜び。楽しみながらごみ減量について関心をもってもらうきっかけになったのではないのでしょうか。



キッチンカーで様々な種類の食べ物を楽しんだ後、訪れる人ごとに目を留め、足を止め、参加者の心を動かす場所となったエコステーション。自動化されたものが多くなった社会でも、やはり人による働きかけの大切さや温かさを痛感した一日となりました。

性別や年齢を超えて、誰もが思い思いに楽しめる温かい空間が広がったwith。コロナ禍からのリピーターも多く、4年ぶりにマスクを外しての活動が可能になった会場には、さらに晴れやかな笑顔が溢れました。

（市民ライター 武田めぐ）



サッカー用品を届けることで ミャンマーの子どもたちを 喜ばせたい！

ミャンマーへの支援のために
Heartship Myanmar Japanと浦安市サッカー協会が連携

ラジオ公開収録と ブースでの展示

今回のwithでは浦安ネットラジオのちょあへよ.comによるラジオの公開収録が行われ、Heartship Myanmar Japanの原口ティナ倫子さん、浦安市サッカー協会の石井敬さんが出演。原口さんはサッカー用品支援に込めた思いについて「日本の子どもたちが、普段から当たり前前に使用しているサッカーシューズやユニフォームは、ミャンマーの山奥に住んでいる子どもたちにとっては見たこともなく、宝物のような存在。前回、サッカー用品を届けた際、子どもたちは大喜びで、困難な状況を生き抜く現地の人々を笑顔にし、希望をもたらすことができました」と語られました。また、石井さんは「サッカー用品を届けてミャンマーの子どもたちが喜んでくれるなら、協力しようと思った。サッカーはボールひとつあれば、言葉や肌の色の違いを超えて、だれもが友だちになれる、人と人をつなぐ力がある。ミャンマーの子どもたちにもサッカーを楽しんでもらいたい」とお話ししてくださいました。

展示ブースでは、ミャンマーの情勢についての情報発信と合わせて、ミャンマーの伝統的な刺繍モチーフを取り入れたオリジナルデザインのトートバックやポーチを販売。収益は教育支援に活用されます。



まちづくりフェスタ withで サッカー用品回収



ミャンマーの支援に取り組んでいるHeartship Myanmar Japanは、withでサッカー用品の回収を行いました。自宅などで眠っている使用済サッカー用品を回収することを事前に告知し、当日はサッカーボールやサッカーシューズ、スポーツウエアなどたくさんのサッカー用品が集められました。ミャンマーで人気があるスポーツのひとつがサッカーということで、集められたサッカー用品は、Heartship Myanmar Japanによってミャンマーの現地に発送される予定です。



サッカー用品を提供した 協力者からはこんな声が・・・

浦安を「世界で一番、誰もがサッカーを楽しめるまち」にするというミッションを掲げて地域貢献活動をしている浦安市サッカー協会と協力することで、市内のサッカークラブメンバーの皆さんなどからの支援を受けることができました。

子どものサッカーシューズを提供した方は、「サイズが小さくなってしまったものの捨てるのはもったいないと思い保管していたシューズを持ってきました。自分がすぐにできる小さな行動によって、役に立つことができる貴重な機会を作っていただき嬉しいです。ミャンマーについて子どもと話すきっかけにもなりました」とのこと。

この日寄付されたものの中には新しいボールやベンチコートなどもあり、夜間は寒くなるミャンマーで重宝されそうです。

Heartship Myanmar Japanへの寄付はいつでも受け付けているので、団体のHPから詳細をご確認ください。また、「見守ってもらっているだけで嬉しい」とのことですので、ぜひSNSのフォローもお願いします。ミャンマーの情勢不安をすぐに改善することは難しいですが、この浦安で集められたサッカー用品がミャンマーの子どもたちに届けられることで、現地の皆さんが少しでも楽しい時間を過ごせるといいですね！

(市民ライター 西橋友理)



ホームページ



Instagram

令和6年度市民活動補助金交付事業決定

地域で抱える社会的課題の解決や、よりよい市民生活の実現のために、市民活動団体が、自ら企画立案し実施する公益性の高い、団体の自立・発展に効果的な事業について、市はその事業費の一部を補助しています。令和6年度市民活動補助金事業は以下のとおりです。

自立促進事業（はじめの一步）

事業名：若者が主催する福祉の研究会

団体名：浦安市福祉を担う次世代の会

多くの若者にボランティア体験を！

「若者のための夏休みボランティア2024」受入団体を募集します

若者がボランティアを体験する大切な機会となっている「若者のための夏休みボランティア」。今年も例年通り実施いたします。ボランティアを受け入れてくださる団体を募集中です。ぜひご応募ください。

受入団体募集期間

4月5日（金）～4月26日（金）

夏ボラ実施期間

7月21日（日）～8月31日（土）

申込方法

所定の申込用紙に必要事項をご記入の上、直接持参またはEメール、FAXでお申込みください。

※ 申込用紙はセンターで配付、ホームページからもダウンロードできます。



利用承認の申請について

令和5年度の市民活動センターの利用承認期間が令和6年6月30日に満了となります。引き続き施設のご利用を希望される場合は、利用承認手続きを行ってください。

提出書類

- (1) 浦安市市民活動センター利用申請書
- (2) 令和6年度 市民活動センター利用承認団体情報確認票
- (3) 令和6年度 市民活動センター利用承認団体活動状況報告書

※書類一式は「つなぐ2024.春号」に同封しております。現在の登録内容も記載しておりますので、ご確認いただき、変更項目の修正をお願いいたします。

データで必要な方はセンターHP内「センターからのお知らせ」よりダウンロードしていただけます。（データには現在の登録内容は記載されていません）

提出方法

直接持参または郵送、Eメール、FAX

提出期限

令和6年5月31日（金）

提出・問合せ先

浦安市市民活動センター



センターだより「つ・な・ぐ」 郵送終了のお知らせ

これまで郵送にてお手元にお届けしておりましたが、ペーパレス化をすすめるため、今号をもちまして郵送を終了させていただきます。

次号「つ・な・ぐ夏号」からはセンターホームページ内から閲覧をお願いいたします。なお、引き続き郵送をご希望される場合は対応させていただきますので、お手数ですが、市民活動センターまでご連絡ください。ご理解、ご協力をお願いいたします。

センター日誌より

2月ごろ女子高校生がボランティアに参加したいと窓口にご相談に来られ、「まちづくりフェスタwith」のボランティアを案内したところ応募されました。今回の「with」ではこの女性の他に市内の高校生31人がボランティアとして、ブースのお手伝い、来場者対応、場内整理などいろいろな場面で活躍し、市民活動団体の皆さんにも大好評でした。今月から、夏休みボランティアの受入団体募集も始まりまして、より多くの若い人たちが参加し、地域のことに興味をもってもらえるとうれしいですね。



問い合わせ・申込みは
市民活動センターまで

発行：浦安市市民活動センター
2024年4月10日

〒279-8501千葉県浦安市猫実1-1-1(市庁舎10階)

TEL: 047-305-1721 FAX: 047-305-1722

E-mail: shiminkc@jcom.home.ne.jp

URL <http://u-shimin.genki365.net>

